

北王農林 アスパラ輸出開始 シンガポールに

2015年3月25日



輸出用に収穫されたアスパラを選別する職員ら

【幕別】農業生産法人・北王農林（幕別、藤原壽美社長）は、主力のアスパラについて、シンガポールへの輸出を開始した。高級品として高付加価値化を進め、販路拡大を図るのが狙い。同社は「今は試行段階。反応を見て増やしていければ」（管理部）としている。

同社によると、アスパラは雑穀卸・山本忠信商店（音更）が設立した輸出代行業などの

「プライム・ストリーム北海道」（同）がシンガポールの現地法人を通じて出荷。現地の日本食レストランに提供するという。

今回は試行的に２キロを25日朝に幕別町内の農場から発送。27日には空輸でシンガポールに到着する予定。プライムは「特に高級な日本食レストランでは、品質が高い北海道野菜への関心が高い」としている。

北王農林は幕別町内を中心に130ヘクタールの畑を持ち、ジャガイモや小麦のほか、各種野菜も栽培。町内に自社運営の野菜直売所もある。中でもアスパラは主力作物の一つ。多い年で年間11トン収穫、管内のスーパーを中心に出荷している。同社では２年前にビニールハウスを17棟増やし、計41棟（1棟7メートル×65メートル）にした。３年後をめどに約２倍の収穫態勢を目指す。管外へのさらなる販路開拓を模索する中で、北海道銀行を通じてプライムを紹介されたという。

枝豆加工品の輸出加速 ８品目、来月香港へ
カレーやラーメン J A中札内村

2015年3月26日

【中札内】ＪＡ中札内村（山本勝博組合長）は、冷凍枝豆に続く加工品の本格的な海外輸出に力を入れる。18日に発売したご当地インスタント麺「えだ豆ラーメン」「えだ豆うどん」など８品目を４月に香港へ発送し、現地の日本料理レストランで使用されることが決まった。珍しさに加えて味も評判を得ている商品は、今後の販路拡大や枝豆の安定した輸出ルート開拓にも一役買うものとして期待が高まっている。



本格的に海外へ輸出される中札内村の枝豆加工品

香港では中国産枝豆が多い中、安全性と質の良さから日本産が目され、同ＪＡは2009年からこれまで約42トンを出荷してきた。枝豆カレーも1000パックに限り出荷した。

一般社団法人さっぽろ産業振興財団の紹介で、昨年９月に同ＪＡ工場と枝豆畑を視察した新華日本食品（香港）の社長は枝豆にとどまらず加工品にも興味を持ち、20日に約半年ぶりに契約交渉のため同ＪＡを再訪。同社が運営する日本料理レストラン「西村日本料

理」（香港、中国、インドネシア）で同ＪＡの商品を提供することが決まった。

第１弾はえだ豆ラーメンとうどん720袋ずつ、枝豆カレー200パック、ミニコロッケ120個、枝豆ペースト20パック、そのままえだ豆と冷凍ハウレンソウ200パックずつ、冷凍インゲン300パックの８品目を出荷し、好評であれば品目を増やしながら追加輸出していく予定。

枝豆の輸出に関しては、東日本大震災に伴う原発事故の影響で停止していたドバイ（アラブ首長国連邦）との取引が４年ぶりに再開。新たな販路としてベトナム、タイとも交渉を進めている。山本組合長は「海外から高い評価をもらえるのは大変うれしいこと。安定供給と販路拡大を目指していきたい」としている。